第20回「あび北フォーラム」議事録

テーマ：A、B、C の各グループ毎の設定テーマ

開催日： 2025（令和7）年2月16日（日） 13時30分～16時30分

開催場所： 我孫子市北近隣センター（ホール、会議室1-調理室、会議室2-3）

参加者： 自治会等： 17自治会等 22人

我孫子市役所：市民協働推進課1人

地域会議事務局等：15人

（合計38人）

配布資料：

- ①開催要領
- ②出欠表
- ③グループ別テーマ表
 - A グループ 高齢者とデジタル化
 - Bグループ 自治会運営について
 - Cグループ 被災後の被災者支援

1. 開会挨拶（要旨）

○事務局長

- ・今回は、前回のフォーラム時に参加された方によりグループ毎に設定して頂いたテーマで討論するという初めての試みにであり、有意義な意見交換・情報交換にして頂きたいとの挨拶があった。

○市民協働推進課 係長

- ・自治会町内会での日常活動や被災時の活動での課題と対応について、グループ討議で共有し理解が深まることを期待するとの挨拶があった。また参考情報として、我孫子市が生活困窮者孤立死防止対策事業としてNPO 法人エンリッチとの協定により行っているLINE を使った市民向け見守りサービスの紹介があった。

2. グループ意見交換概要

前回フォーラム時に各グループが設定したテーマで意見交換・情報交換に入った。

各グループの意見交換概要は、【別紙】グループ討論概要を参照。

3. 連絡事項

- ・事務局より令和7年度の開催予定日のアナウンスがあり、閉会した。

以上

【別紙】 グループ討論概要

各グループの意見交換の概要（ポイント）を以下に記す。

【Aグループ】

「高齢者とデジタル化」をテーマに、

- ① 高齢者の買い物弱者への対応、
 - ② 高齢者リスト情報の共有&避難対応、
 - ③ 高齢者のLINE等での情報提供&共有、
 - ④ 一人高齢世帯への外出促し
- をサブテーマに意見交換が行われた。

主なものは以下。

- ①の「高齢者の買い物弱者への対応」では、
 - ・（このグループはつくし野地区が中心で、）以前は地区内にスーパーもあったが現在は数百メートルほど先までいかなければならない。坂道もあって高齢者がカートをひいて歩くにはきつい。
 - ・それでも、何日か分をまとめ買いしたり、宅配や週2回ほどくる生協を利用したりと個々人で工夫されているようで、現在のところ、自治会の課題には至っていない。
 - ・また、高齢者なんでも相談室に寄せられるものでも買い物自体の問い合わせはあまりないが、高齢者だけの世帯では年齢とともに手伝って欲しいという話は増えてきている。
- ③の「高齢者のLINE等での情報提供&共有」では、
 - ・我孫子市の事業として行っているLINEでの見守りサービス「エンリッチ」の紹介があったが、内容について知っている方が少なかった。
 - ・「ゴミ出しがない」とか「電気がつかない」など隣り近所が関心をもつことでの見守りも重要。などの話が出ていた。

※②と④の話もあったが省略する。

【B グループ】

「自治会運営について」をテーマに、

- ① 役員の担い手不足の要因と対応策、対応上の課題について、
- ② 地震や洪水時の自治会の対応について（日中帯の対応など）
- ③ 一人住まい高齢者の日常生活での困りごとへの自治会の支援について
をサブテーマに意見交換が行われた。

主なものは以下。

①の「役員の担い手不足の要因と対応策、対応上の課題について」では、

- ・自治会役員選出方法について紹介があり、選出方法としては、
会長まで“持ち回り”の自治会、
班長や組長までは“持ち回り”で会長や副会長などは“話し合い”の自治会、
全て“話し合い”の自治会
にわかれた。
- ・“持ち回り”では、
役員選出で現在は問題とはなっていないが、世帯の高齢化が進んでおり、高齢で役員が困難な世帯
はスキップしてはいる。

それが今後は増えてくることが想定され、数年先には問題が顕在化してくるので、対応の検討を始めていく必要があるとのこと。

- ・“話し合い”では、最終的に決まらない時は「くじ引き」で決めているとのこと。
- ・会長や副会長等につきたくない理由に、「時間がとられる」「雑務が多い」があるとの話がある。
この問題に対して、ある自治会では、定例役員会の開催時間を議題が少ないときは短時間とし、
議題が多くても2時間で終了するようにし、回覧も急ぎ以外は、纏めて回覧するようにして、役員
の負荷低減を図るなどで対処した結果、副会長等につきたくないという問題はなくなったとの紹
介があった。それでも会長職になりたいということまでには繋がらないとのこと。
- ・役員間の情報連絡や情報共有の負荷低減として、LINEを活用している自治会があった。
- ・役員の担い手の問題は、高齢化が進み、若手の入居者がほとんどいないという状況の自治会では、
近い将来、役員の担い手の問題にとどまらず、自治会の存続そのものの問題になっていくとの話が
あり、今後の課題として検討していく必要があるとの発言があった。
- ・自治会の役員ばかりではなく、子ども会の役員の引受てがなく“解散”が増えている。地域のコミュニティの場が一つなくな
ってきている。SNS で繋がるが、やはり地域のFace to Face の繋がりは防犯・防災などをはじめ重要であり、自治
会もその役割を振返る時期になってきているとの発言があった。高齢者の孤独死防止のためにも地域のコミュニティは
重要との発言もあった。

②の「地震や洪水時の自治会の対応について（日中帯の対応など）」では、

- ・ある自治会から、初めての試みとして今年度「ご近所サポーター制度」を導入したとの紹介があった。「ご近所サポーター制度」とは、避難行動要支援者の避難をサポートして頂ける方を「ご近所サポーター」として募集・登録し、支援の輪をひろげていくことを目的にしているとのこと。
- ・別の自治会では、毎年避難訓練時期に、アンケートで避難行動要支援者の有無世帯の把握を行い更新し、自治会役員で共有しているとの紹介があった。
- ・災害が平日日中帯（現役世代が仕事で地域にいない時間帯）での避難などの対応については、課題の認識の共有どまりであった。

③の「一人住まい高齢者の日常生活での困りごとへの自治会の支援について」では、

- ・ご近所の方同士のふれあいを深めていくことで、一人住まいの高齢者の日常生活での困りごとを遠慮なく話せるようになることが重要であり、自治会の支援としては、（②の話の中であった）「ご近所サポーター制度」などはその一つの取組みになるとの話があった。また、地域のイベント（夏祭り、避難訓練など）を通して、ご近所の顔が見えることが大事との認識で、自治会でできることを今後も実施していくことが必要との発言があった。
- ・2月16日の「広報あびこ」では更新されたハザードマップについての情報が掲載されたが、最近新聞をとっていない世帯が増えてきており、新聞に折込で配布される市の「広報あびこ」の情報がいきわたらない、そこで「広報あびこ」の情報をどう届けたらよいかとの話がでた。
新聞をとっていない方には申し込むことで、個別配送してもらえるのだが、そのことも知らない方が多いと思われることと、その申し込み手続きも支援が必要な方もいると思われるので、例えば、全戸配布されている「地域新聞」のようなものを活用するなど市に提案することも必要なのではとの話があり、今後の課題として認識した。

【C グループ】

「被災後の被災者支援」をテーマに、

- ①安否不明者の再確認、
- ②要救出者の救出、
- ③ 被災後の生活支援（在宅避難者・避難所避難者への支援）
- ④火災発生に対する支援

をサブテーマに意見交換が行われた。

主なものは以下

①の「安否不明者の再確認」では、

- ・ある自治会（マンション）では、「安否確認」では、自宅にいる方は「無事です」「助けてください」といったマグネットシートを玄関に出すことにしているが、それが出されていないお宅の方の安否確認をどうするかを検討し、現在は、要支援者がいるお宅の場合、事前に管理組合と防災会に届けてもらっておき、その際、鍵を他に預けられる場合はその方の連絡先を、そのような方がいない場合は、例えばバルコニー（ベランダ）側から入って安否確認をしてもよい、さらに一歩踏み込んでガラスを割ってでも入って安否確認をしてもよいというレベルまでを一緒に提出してもらうことにしているとのことで、その紹介があった。
また、仕事の時や間帯などでは、世帯全員が不在ということもあるので、仕事先などでも連絡がとれるよう電話番号なども事前に管理組合と防災会には提出してもらうことにしているとのこと。（補足：マンションの場合は、入居にあたり、緊急時の連絡先を届けるので、その利用は可能との説明あり。）
- ・避難行動要支援者や安否確認用の情報の保管方法についても情報交換が行われた。
あるところでは、金庫に保管しているところもあったが、それらの情報は地震時などの緊急時に活用できるようになっていること、さらに最新情報に更新されていることが重要であり、扱いに苦慮しているとの話があった。
- ・また、所有者と居住者が異なる場合もあることに注意する必要があるとの話があった。
- ・「安否確認」（災害対策本部）のトリガーを「震度5弱」以上というようにしているところもあれば、そのようなものがまだないところもあった。
また、対策本部員でも、災害時直後は「自分の家族、親族・知人」などの安否確認や被災状況を確認した後に、本部員として行動できるようなら本部員としての「安否確認」を行うという順番になるが、それらの認識が十分でないところもあるようなので、そのあたりの整備も必要との話があった。

②の「要救出者の救出」では、

- ・要救出者の有無の確認方法は①の通り。救出方法の話は今後ということに。

③ の被災後の生活支援（在宅避難者・避難所避難者への支援）では、

- ・我孫子市の現在の避難所運営訓練は、避難所での避難者の受付と避難所の場所を見てもらうところ

までで、避難所での生活期間中の避難所の運営訓練はまだ先とのことであること、

(市のマニュアルでは) 避難所生活期間中の避難所の運営は自治会・自主防災組織等を中心とした運営委員会などによる自主運営により行うことを原則とするがあるが、そのような委員会をつくっての自主運営は、相当の訓練を行っていないと円滑には立ち上がらないことなどを共有した。

- ・マンションは在宅避難というけれど、電気・ガス・水道が止まっている場合や、それらは大丈夫でも高層階でエレベーターが動かない場合は、在宅避難での生活は難しくなり、避難所へということになり、マンションも避難所避難は他人事ではないことも共有した。
- ・以上の状況を理解した上で、自治会や自主防災組織は何をすればよいのか、そのためには通常時に備えておくことは何かを共有し、実施できるようにしておく必要があるとの認識を共有した。
- ・在宅避難に備えて、飲用水・食料や簡易トイレ、その他ホームページなどにチェックリストとともに紹介されている災害時に備えて用意しておくものや確認しておくものなども日頃から点検しておきたいという話が出ていた。(「自助」の備えが最も重要)

④の「火災発生に対する支援」では、

- ・我孫子は地震時では津波の心配はないが、特に住宅密集の都市部では大規模火災に発展しやすいので、安全な場所への避難が重要になる。そのために、自治会では消火器を準備し、初期消火のためにその使用の訓練をしているところもあるとの話が合った。

以上